

## 文献

- 明石知子, 友田尋子, 誉田貴子他(2002). DV(ドメスティック・バイオレンス)のネットワークに関する調査ーその 2.病院における被害者への対応の問題点ー. 母性衛生, 43(1), 127-132.
- 麻原きよみ (2011). コミュニティの支援. 木下由美子. エssenシャル地域看護学第2版事例集. 130-133. 医歯薬出版株式会社.
- 江藤宏美, 森明子, 三橋恭子, 片岡弥恵子(2003). Women's Health と性暴力被害者支援 - 医療関係者のためのカナダ研修に参加して - . 聖路加看護大学紀要, 29(3), 32-39.
- Espinoza H, Camacho AV(2005). Maternal death due to domestic violence: an unrecognized critical component of maternal mortality. Rev Panam Salud Publica, 17, 123-129.
- 遠藤里美, 宮内清子, 佐久間夕美子他(2011). 出産場所としての助産院(所)Ⅱ 助産院(所)での出産が増えるために何が必要か?助産院(所)へのアンケート調査報告. ペリネイタルケア, 30(3), 86-90.
- Feder G, Ramsay J, Dunne D et al. (2009). How far does screening women for domestic(partner) violence in different health-care settings meet criteria for a screening programme? Systemtic reviews of nine UK Nationals Screening Committee criteria. health Technology Assessment, 13(16).
- 藤田景子,高田昌代(2008). 低出生体重児を出産した母親とドメスティック・バイオレンス(DV)との関連. 日本新生児看護学会誌, 14(2), 6-14.
- 東田有加, 今田恭子, 三木佐登美(2010). 妊婦におけるドメスティック・バイオレンス被害の実態ー面接式 DV スクリーニングの逐語録よりー. 母性衛生, 51(1), 163-169.
- 今村利香(2004). 医療関係者が求める DV(Domestic violence)被害者支援についてー事例検討自由記述方式による調査よりー. 日本看護学会論文集: 地域看護, 35, 178-181.
- 今村利香(2005). DV 被害者支援対策における看護職者の役割と教育に関する基礎的研究. 日本看護学会論文集: 看護総合, 36, 17-19.
- 今村利香(2006). 看護師(看護管理者)の DV 問題に関する研修参加状況と DV 被害者への対応に関する認識. 日本看護学会論文集: 看護教育, 37, 264-266.
- 今村利香(2007). DV 防止法の知識と Domestic Violence(DV)被害者支援に関する研修会への参加についての一考察ー看護師長の所属機関別分析結果よりー. 日本看護学会論文集: 看護総合, 38, 526-528.
- 今村利香(2007). 事例展開方式にて明らかとなった看護師への DV(Domestic Violence)被害者支援の問題点ーキーワード分析より看護師教育の必要性を探るー. 日本看護学会論文集: 看護教育, 38, 314-316.
- 今村利香, 峰和治(2010). 看護職員を対象にした DV 被害者支援研修システムに関する研究半構造化面接調査法の分析結果より. 日本看護学会論文集: 看護教育, 40, 134-136.

- 石井朝子, 飛鳥井望, 木村弓子他(2003). ドメスティックバイオレンス(DV)簡易スクリーニング尺度(DVSI)の作成および信頼性・妥当性の検討. 精神医学, 45(8), 817-823.
- Kataoka Y. (2003). Effectiveness of two screening methods in a prenatal setting for identifying women experiencing domestic violence: A randomized controlled trial. St. Luke's College of Nursing Doctor Dissertation.
- 片岡弥恵子(2004). 性暴力被害に関する看護者への教育プログラムの評価. 日本看護科学会誌, 24(1), 3-12.
- 片岡弥恵子(2005). 女性に対する暴力スクリーニング尺度の開発. 日本看護学会誌, 25(3), 51-60.
- 片岡弥恵子, 堀内成子(2001). 看護者のもつ性暴力に対する態度と知識. 日本助産学会誌, 15(1), 14-23.
- 片岡弥恵子, 長坂桂子, 井上梢他(2008). 医療施設における DV 防止法に向けての取り組み. 助産雑誌, 62(3), 236-242.
- 片岡弥恵子, 櫻井綾香, 江藤宏美, 堀内成子(2010). 日本の医療施設における DV 被害者支援の現状. 聖路加看護大学紀要, 36, 59-63.
- 片岡弥恵子, 八重ゆかり, 江藤宏美, 堀内成子(2007). 妊娠期におけるドメスティック・バイオレンス. 日本公衛誌, 52(9), 785-795.
- 片山美穂, 楠本祐記, 北田衣代他(2007). 妊婦のなかの DV(Domestic violence)被害者の発見と支援の取り組み. 産婦人科の実際, 56(9), 1401-1406.
- 加藤治子(2006). 暴力被害者と出会うあなたへーDV と看護 “医療者が DV 被害者にかかわる「視点」”. 医学書院, 61.
- 川原みちよ, 中塚幹也(2011). 「妊婦の DV 被害」の実態と産科医療スタッフの意識. 母性衛生, 52(1), 147-159.
- 川喜田好恵(2000). DV 被害者への心理的サポートの実際. 助産婦雑誌, 54(7), 586-590.
- 菅田貴子, 友田尋子, 藤田千恵子他(2003). 暴力が女性に及ぼす影響ー女性への暴力の実態調査(その 1)ー. 母性衛生, 44(1), 83-92.
- 工藤奈織美, 山田典子, 山本春江他(2005). ドメスティック・バイオレンス被害者支援のためのチェックリストの検討ー看護職へのアンケート調査からー. 日本看護学会論文集 地域看護, 36, 219-221.
- Lundy Bancroft(2004). DV・虐待にさらされた子どものトラウマを癒す お母さんと支援者のためのガイド. 阿部尚美・白倉三紀子訳. 白川美也子・山崎知克監訳(2008). 明石書店.
- NPO 法人レジリエンス(2010). 傷ついたあなたへ 2 わたしがわたしを幸せにするということと DV トラウマからの回復ワークブック. 梨の木舎.
- Markin D(1996). Fighting the silent epidemic. helth progress, 77, 30-33.
- 宮内薫子(2007). ドメスティック・バイオレンス(DV)被害者への市町村保健師の支援の実態.

- 保健師ジャーナル, 63(2), 174-179.
- 宮崎千香, 片岡弥恵子(2010). 周産期医療における DV に対する組織的な取り組みの実際. 聖路加看護学会誌, 14(2), 37-44.
- 宮崎文子(2005). 活動場所の特性と業務 B 助産所. 日本看護協会監修. 新版助産師業務要覧. 161-184. 日本看護協会出版会.
- 毛利多恵子(2009). 正常産は助産師に. ペリネイタルケア, 28(3), 104-108.
- 長坂桂子, 井上梢, 堀井泉他(2012). 産褥期の女性に対する DV スクリーニングと支援の実際と評価. 母性衛生, 52(4), 529-537.
- 内閣府男女共同参画局(2011). 配偶者暴力支援センターにおける配偶者からの暴力が関係する相談件数等の結果について.  
<http://www.gender.go.jp/dv/kensu/pdf/2010soudan.pdf>
- 内閣府男女共同参画局(2012). 男女間における暴力に関する調査報告書(概要版).  
<http://www.gender.go.jp/e-vaw/chousa/images/pdf/h23danjokan-gaiyo.pdf>
- 内閣府男女共同参画局(2012). 配偶者からの暴力に関するデータ.  
[http://www.gender.go.jp/e-vaw/data/dv\\_dataH2407.pdf](http://www.gender.go.jp/e-vaw/data/dv_dataH2407.pdf)
- 野口静子, 岡崎美智子, 濱寄真由美(2012). 助産師の周産期ドメスティック・バイオレンス被害女性への支援を促進する要因. 母性衛生, 53(3), 219.
- Norton LB, Peipert JF, Zierler S et al. (1995). Battering in pregnancy : an assessment of two screening methods. Obstet Gynecol, 85(3), 321-325.
- 沼崎一郎(2007). 家庭におけるハラスメント対策—DV 被害者支援の教訓—. メンタルヘルスの社会学, 13, 4-7.
- 小野清美, 奥田博之, 光岡美智子(2002). 助産所における色彩環境に関する検討—診察室および玄関兼待合室の視感測定を実施して—. 岡山大学医学部保険学科紀要, 13, 37-45.
- Rachana C, Suraiya K, Hisham AS et al. (2002). Prevalence and complications of physical violence during pregnancy. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol, 103(1), 26-29.
- Rumn PD, Cummings P, Krauss MR et al. (2000). Identified spouse abuse as a risk factor for child abuse. Child abuse Negl, 24(11), 1375-1381.
- 佐々木静子, 小竹久美子(2012). 暴力被害者支援チーム 医療法人社団向日葵会まつしま病院. 看護 3 月臨時増刊号, 64(4), 75-79.
- 聖路加看護大学女性を中心にしたケア研究班(2004). EBM の手法による周産期ドメスティック・バイオレンスの支援ガイドライン 2004 年度版. 金原出版株式会社.
- 菅原真由美(2010). 医療機関におけるドメスティック・バイオレンス被害者支援に関する実態調査. こころの健康, 25(2), 44-52.
- 菅原真由美, 脇幸子(2010). ドメスティック・バイオレンス被害者支援に関する医療者の認識. 日本看護学会論文集: 地域看護, 41, 60-63.

- 鈴木康江, 荒木まみこ, 佐藤知美他(2009). 妊婦へのドメスティック・バイオレンス(DV)の実態調査ー背景因子と健康への影響についてー. 米子医誌 J Yonago Med Ass, 60, 168-176.
- 高田紗英子, 牧田潔, 加藤寛(2011). DV 被害者における支援阻害要因に関する一考察 医療機関が支援環境として機能するために. 心的トラウマ研究, 7, 41-48.
- 友田尋子(2006). 暴力被害者と出会うあなたへ DV と看護.(初版). 医学書院.
- 友田尋子, 菅田貴子, 明石知子他(2002). DV(ドメスティック・バイオレンス)のネットワークに関する調査ーその 1. 病院での取り組みについてー. 母性衛生, 43(1), 117-126.
- 宇野日出男, 宇井志緒利, 青山温子(2004). ドメスティック・バイオレンス(DV)ー公衆衛生の視点から. 日本公衆衛生雑誌, 51(5), 305-310.
- 山田典子, 宮本真巳(2005). DV 被害者を支援するスタッフが抱える困難の構造. 精神科看護, 32(3), 40-47.
- 山本八千代(2008). ドメスティック・バイオレンス被害者の医療機関における状況の調査ー被害者の来院目的, 健康問題, 医療従事者の DV 認知状況ー. 母性衛生, 48(4), 551-558.
- 矢守克也 (2010). アクションリサーチ実践する人間科学.(初版). 新曜社.